

2017-12-6

ディレクトフォー ス コメント

(1) 今後の政策に反映してもらいたいこと

- ー このような検討を経済産業省にとどまらず、省庁をまたいだ大きな議論にしてほしい。
- ー 共通認識として少子高齢化、過疎化が厳しい現実として迫っていることに対して、抜本的大胆な、街づくり、社会インフラ等の設計を期待（50年100年を見据えて、特区などを有効に活用し挑戦すること）

未来投資会議の「まずはやってみる」という実証は是非推進をできるところから着手

（立派な100の企画より、一つの具体的実行）

- ー 快適さの追求も良いが、最低限のインフラで我慢する仕組みと方向づけ（最低限を我慢できない人には自己責任で解決することを指導する）

（政策は最小限の保証が良い、国民が最小限の恩恵が何かを知ること、知らせることが必要）

- ー エネルギー問題、環境問題、国際情勢等個人で対応できない課題については、繰り返し正しい情報を流すことで、国民が不安ではなく、危機感として正確に認識を持てるような仕組みを作る 周知、広報の在り方。
- ー 規制緩和の推進、規則や最小限にして、自由度を持たせる政策。
- ー 労働人口減、高齢化の必然の中、日本は生産性の向上が必須 生産性向上促進のための企業努力に対するインセンティブを与える施策が必要（税制等）
- ー 医療・介護・終末などの選択に自己責任と制約を設けること。

（例）尊厳死の選択などは、献体と同じように保険証に自己申告できるようにする。

- ー 大災害、国際情勢急変等の国難に備えたプログラム（非常時対応訓練等）、これによって国民の意識を漠然とした不安感から具体性を持った危機意識に変えさせること。

(2) 経産省の提言で、現状認識について DF メンバーと異なる考え

- ー インダストリー4.0 ソサイエティー5.0 産業・社会の変革は分かるが、現状の大変革に追い付けず取り残される人が大部分

モノづくり、社会インフラ作りと並行して、人の認識を変えないと不安は広がる

産業・経済的な政策に偏り過ぎていないか

- ー 成り行きでの2030年の産業・社会などという取り組みではなく、現状を踏まえて日本はどのような国の姿にするのか、省庁を超えて日本人に考えさせる誘導をしてもらいたい。

(3) 不安について

- ー 不安の元凶が国家・社会に対する問題か、個人の問題か輻輳している。社会インフラ

を整備すれば個人の問題も解決するのか、それとも快適な生活ありきで不満を述べているのか、不安の元を吟味すべき

ー 不安のデータは正しいのか、掘り下げて検証すべき

(マスコミ等に誘導された不安か、周りを見て感じているだけの不安や不満か、本質的な不安なのか、マジョリティーなのか、一部の大きな声だけなのか、世代別、学歴や収入等の背景の違い、等を切り分けて分析し、解決すべき本質的不安について絞った対応が必要

⇒ 不安についてのしっかりとした調査がいるのではないか)

ー 本質的な弱者(母子家庭、要介護者、非正規雇用ワーキングプア、引きこもり等の精神的弱者等)については個別に最小限ながらも生活維持に手を差し伸べる政策

(4) DFの考えるシルバーとは

ー シルバー民主主義といわれるような意識はない。

ー 高齢者=弱者という刷り込みで、政治が高齢者に忖度しているのではないか
弱者としての高齢者と、健康寿命で活躍する高齢者を一括りにしないこと。

ー 社会保障・医療介護・生活保護・終末選択等 サービスを年齢や収入で最低ラインの制約を設け、それ以上は自己責任として選択を与えるべき シルバーだからサービスを受けるのは当たり前という風潮から脱却。

ー シルバーに社会活動できる機会の拡大 (シルバーは引っ込み思案、社会に引っ張りです仕組み作り)

元気なシルバー、働きたいシルバーは沢山いる。ダイレクトフォースはその取り組み例だが、政策として声をかければ広がるのではないか(特に地域ごとの取り組みに)

ー シルバーが改革を阻んでいるだろうか、むしろシルバーの方が政治経済の改革や環境問題、安全保障の問題等に敏感なのではないか。改革が進まないと日本が沈没することを憂いているのはシルバーではないか。

(5) その他(ここでは省略)

教育問題(制度、内容等)、徳育・倫理観、幸福感、国家観、国家財政問題、医療介護問題、弱者対策、異質なモノやコトに対する意識、マスコミ対応、政治問題、選挙制度、生き甲斐・死生観、世界観、安全保障問題

⇒ それぞれに多くの議論があるが、ここでは上記課題に集約して意見をまとめる